

会議名

第 1 回 文化・観光・産業部会

日 時

平成 2 9 年 1 1 月 1 5 日 (水) 1 8 時 4 0 分 ~ 1 9 時 3 0 分

会 場

すみだりバーサイドホール イベントホール

会議の概要

1 自己紹介

2 運営方法

部会長は部会の運営を行い、幹事は部会長を補佐する。

部会の協議内容等により、関連する区の管理職と職員が部会に出席する。

部会の開催頻度は、協議内容等により適宜開催する。

3 役員の選任

部会長に、一般社団法人 墨田区観光協会の高野祐次理事長が選任された。

4 意見交換

【部会員の意見】

- ・目指す方向性の追加案として、「地域の魅力を文化活動を通じて再発見する」「区民自らが誇りに思っている」「文化を通じたコミュニティ作り」が上げられた。
- ・地域が誇りに思えるような事業として展開していきたい。
- ・見る観光だけではなく、体験型観光も重要である。
- ・ものづくり体験に来てくれる外国人（中国、欧米）が増えている。
- ・ものづくり体験はある程度時間がかかるので、触れ合いの時間を持つことができ、有意義である。
- ・ホテルの会議室も使って、ものづくり体験等を実施してはどうか。
- ・屋形船を飲食の場としてだけではなく、会議スペースとしても使ってもらいたい。
- ・鉄道・バス・舟運の活用を。
- ・地域の人が自分のまちを知らないということも意外と多いと思うので、自分のまちを知っていただく仕掛けも必要である。それがホスピタリティにつながる。
- ・インバウンドの人たちにとって形のある物を作ることだけが「体験」ではない。ちゃんこ料理やすき焼き等、生の食材から食べられる状態まで調理するものは、ものづくりの体験にも通じる。
- ・観光客の墨田区内への滞留時間を増やすことが大切である。長く滞留してもらって、何か買ってもらったり、印象に残していただく。そのための仕掛けとして、両国にある国技館や各種美術館・博物館と東京スカイツリーとの連携が必要である。
- ・1964年の東京オリンピック・パラリンピックでは、日本国民に自信を与えてくれた。今回もそういった大会となるよう育てていきたい。そのためには、フラッグ掲出等、まちの機運醸成が大切である。せっかく観光客が来てくれたのに、まちや商店街がしらけてい

てはいけない。まちや商店街も盛り上がっているよということを示すことが大切である。

- ・観光客にとって、行政区域の区分けは関係ないので、台東区との連携協定を踏まえ、是非、下町地域全体として誘客を図ってほしい。
- ・こうした場に参加することで、皆さんの活動を知ることができて大変有意義である。弊社の従業員も巻き込んでいきたいと思う。
- ・レガシー（案）の と④の文言が抽象的であるので、経済的なメリットを期待（強調）した表現としてはどうか。
- ・観光協会の理事会でのやり取り等についても、本部会で披露していきたいと考えている。ポストオリンピック・パラリンピックにつながるような取組を、皆さんと共に進めていきたい。
- ・11月29日に、東京商工会議所の全体会があり、そこで東商としての東京2020大会に向けた取組の方向性が固まってくるので、次回部会で紹介したい。次回部会では、各団体・事業者における東京2020大会に向けての取組内容及びその進捗状況等を報告してみてもどうか。
- ・1社単独ではできないこともあるので、皆でやる仕事も検討してみたい。例えば、選手村でどの程度、墨田区の産品やユニホーム等を使ってもらえるのか、検討してはどうか。
- ・来てくれた人の滞留時間（滞在時間）を長くするにはどうしたらよいか。
- ・「スカイツリー」と「両国」が点と点で、結ばれていないのが現状。
- ・前回のオリンピックの時は、日本が自信をつけた。今回もそういうものを残したい。
- ・期間中、来る人は熱を持っている。迎える方がしらけてはいけない。街の隅々まで賑やかさの創出を（カラ元気でもいいので）。
- ・ボクシングだけでなく、観光の楽しみも（コミュニティバス、スカイライナー等を活用して）。
- ・次回部会で、各団体・事業者における東京2020大会に向けての取組内容及びその進捗状況等を報告することとした。なお、日々の情報共有等については、メールを中心にやり取りすることとした。

5 次回の開催について

30年3月頃開催する。

6 その他

- ・部会終了後、「おもてなし・健康部会」に所属している東武トップツアーズ様から、「文化・観光・産業部会」にも所属する意向が示されたので、名簿に追加する。